

環境衛生委員会より 不法投棄ゴミ回収活動について

平成十六年十一月二十一日（日曜）に環境衛生委員活動の一環として、村内不法投棄ゴミの収集を村内道路周辺を対象に行いました。約半日の作業でしたが、ビニール、紙類等の可燃ゴミを指定ゴミ袋に十五袋、缶類七袋、ビン類二袋をはじめ、冷蔵庫、洗濯機、テレビの家電リサイクル対象品やタイヤ等、様々な投棄ゴミを回収しました。村道大茅線の兵庫県千種町との県境付近、下土居の国道三七三三線待避所付近、知社の林道上の谷線終点付近の村道待避所は特に多く、不法投棄禁止看板の周辺に集中的に投棄するなど悪質化しています。今後も岡山県不法投棄



▲不法投棄（タイヤ）



▲不法投棄（缶類分別）



▲不法投棄（テレビ他）

監視員と協力し、不法投棄の無い村を目指して活動していきます。

大原高校だより

大原高校校歌CDレコーディング

残念ながら大原高校は、もう1年余りで閉校となります。文化祭は、大原町文化協会・教育委員会の協力で成功裏に終わりました。そのテーマは、「絆（OHARA HIGH SCHOOL forever in our heart）」でした。長年、教育・文化の中心として、地域の方々に愛された大原高校を、心の中に永遠に刻んでおこうという生徒会の発案で、校歌のCD録音が計画されました。

まず、大変であったのは、著作権のクリア。作曲は、「信時潔」氏。現在の東京芸術大学の教授もなさった方で、「一番星見つけた」・軍歌「海ゆかば」から慶応義塾大学の塾歌などを作曲される大先生。しかし、1965年に亡くなっており、ご遺族と連絡がとれず苦労。東京芸大のご協力で探すことができた。事情を説明するとCD作成を喜んでいらしゃった。作詞者はかつての大原高校の教頭「大杉堅」先生。地元大原町下庄にご遺族がいらしゃって、快諾をいただく。

緑にこもる美しの
園美作のはてわたり
高くながるう白雲に
自由の望み仰ぎみる
あわが母校大原高
なぞえゆたかにおおらかの
峰高麗の目にそめて
青空かざるやすけさに
平和のすがた求めつつ
あわが母校大原高
かいと巡りて清らかな
流れ吉野の石白き
真澄のよどのかきけさに
英知の深さ思いつつ
あわが母校大原高

大杉堅先生の在任中の大原の自然の美しさが思われる清々しい詩。また、生徒がだらかに、自由・平和・英知を育むようにという願いも伝わり、現代的意義も大きいと思います。

生徒もこの詩を大変気に入っている様子。

11月17日(水)。ハートピア勝北のホールを借り、全校の生徒35名・教職員15名でレコーディング。ピアノ演奏は春名明美先生。50名がステージに。マイクがずらりと並び、咳すらも許されず、全員緊張のあまり声も固かったが、2回3回と練習するうち、明るい若々しい歌声となった。生徒はもちろん、教職員も全員力を合わせ一生懸命取り組む。10回ほど歌ったとき、全員の心が一つになり、録音業者K2からOKが出る。

音痴の小生も邪魔にならないようにと小声で歌っていたが、「あわが母校大原高」のフレーズでは思わず力が入る。迷惑をかけたかも知れぬ。

12月16日(木)には、軽音楽部のバンド演奏の録音。部員は、毎日必死で取り組んでいる。「津山ボーカルアンサンブル」の合唱の録音。津山シティプラスの録音。など、香川先生を中心に大原高校校歌CDの録音は「絆（OHARA HIGH SCHOOL forever in our heart）」。

2年生 平田朋大君。「緊張したが楽しかった。伝統ある大原高校がなくなると思うと寂しい。歌っていると最後の卒業生としてがんばらねばという思いが強くなった。」

2年生 中尾理恵さん。「この校歌が忘れられないためにも、大きな声で歌った。」

3年生 若林実君（軽音楽部部長）。「楽器のリズムを合わせるのが難しいが、校歌をカバーできるのは光栄です。」

（副校長 上原正之 12月1日記）